

ア
ウ
ト
リ
チ

通信



第 30 号

2017 年 9 月 20 日発行
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための
コンサート・シリーズ

スペシャル・コンサート

「子どものためのスペシャル・コンサート」室内オーケストラで聴く動物と音楽」(「子どものためのコンサート・シリーズ」第四十六回)を二月二十五日(土)、本学講堂で開催しました(十四時開演、来場者数・子ども二百五十名、大人二百六十六名、計五百十六名)。

これは、二〇〇二年にスタートした「子どものためのコンサート・シリーズ」が開設十五周



年を迎えたのを記念して行われた「十五周年記念特別コンサート」で、本シリーズ初の室内オーケストラ

の出演によって、サン・サーンスの組曲《動物の謝肉祭》を中心とするプログラムを謝肉祭の期間中(今年は二月二十三日から二十八日まで)に演奏するという形で企画したものです。

このコンサートのために編成された「十五周年記念スペシャル



ル室内オーケストラ」は、本学音楽学部の教員(辻井淳)と非常勤講師(菊本恭子、蔭山晶子、小西朋子、大浦春菜)から卒業生(土井麻莉、西脇恭子)、院生(田中佑奈、岩井香那、樋口成香、山田りさ)、学部生(藪内弥侑、橋本詩織、金丸史奈、池上夏帆、前田紗希)、さらには他学部生(藤井さくら)に及ぶ多彩な顔ぶれの奏者十七人によるもので、指揮はザビエル・ラック専任講師です。これに、



司会とアクティビティ担当として「アンサンブルくれよん」の院生四名(樋口成香、田中佑奈、丹野桃子、和田悠加)が加わりました(敬称略、詳細は別表の出演者一覧を参照)。

コンサートオープニングは、ジョルジュ・ビゼー作曲のオペラ《カルメン》から間奏曲です。弦楽五部とピッコロ、フルート、コール・アングレ、クラリネット、ファゴット、ピアノの編成(ザビエル・ラック編曲)で演奏しました。

司会の二名(丹野桃子、和田悠加)が登場して演奏会





の趣旨を簡潔に述べた後、演奏楽器の紹介を行いました。楽器名を呼ばれた奏者が次々に立ち

上がって楽器を高く掲げ、最後に指揮者が紹介されると会場から笑いどよめきが起りました。

謝肉祭がどんな行事かを分かりやすく説明してから、組曲《動物の謝肉祭》を楽しく聴くためのヒントとして、いろいろな曲のメロディーが隠れていることを、実演を交えて説明しました。まず、(一) オッフエンバックのオペレッタ《天国と地獄》序曲を、普通の速いテンポとゆっくりの(組曲中の「亀」の)テンポの二種類で聴き比べ、次に、(二) メンデルスゾーンのオペ

ラ《真夏の夜の夢》のスケルツォを、まずはオリジナルのフルート、続いて(組曲中の「象」の)コントラバスの演奏で聴き比べ、最後に、(三) サン＝サーンスの《死の舞踏》とフランス民謡《キラキラ星》の二つを演奏して、この二つが同じ曲の中で出てくることを伝えました。

その上で、「動物たちをどんな音で、どんなリズムや動きで表現しているのか、考えながら聴いてみましょう」と呼び掛けて演奏に移りました。

前半のメイン曲はカミーユ・サン＝サーンス作曲の組曲《動物の謝肉祭》で、これをナレーションと折り紙の映像つきで上演しました。折り紙制作は、立石浩一氏(本学文学



部英文学科教授、日本折紙学会評議員)です。

《序奏と百獣の王ライオン》から《おんどりとめんどり》《ロバ》《かめ》《ぞう》《カンガルー》《水族館》《耳の長い登場人物》と進み、《森の奥のカッコウ》ではクラリネットが客席に下りて通路を歩きながら演奏しました。



フルートの活躍する《鳥のかご》に続いて、《ピアノ》ではピアノの二人(大浦春菜、西脇恭子)の下

手振りに指揮者がずつこけるほど。硬質の《化石》、優雅な《白鳥》に続いて、華やかな《終曲》を迎えました。

十五分間の休憩を挟んで、後半はセルゲイ・プロコフィエフ作曲の組曲《ピーターと狼》を



ヘルムート・シュミディンガー編曲版で演奏しました。楽器編成は《動物の謝肉祭》

と同じで(ピアノは一台、演奏は金丸史奈)、こちらもナレーションと折紙の映像つきです。

最後は「みんなで歌いましょう」のコーナーで、ドイツ民謡《山の音楽家》(水田詩仙訳詞、ザビエル・ラック編曲)を会場の皆さんと一緒に歌いました。その後、首からメダルを下げた

会場の子どもたちが舞台上がって、出演者一人一人に花束を渡して終演



となりました。

終演後は恒例の楽器体験のコーナーです。舞台上ではコンサート・グラランド・ピアノとシロフォン、舞台下ではヴァイオリン、総務部前でチェロ、ソール・チャペルでフルートと分かれて子どもたちが行列を作り、順番が来ると学生のサポートを受けながら嬉しそうに音出しに取り組んでいました。

会場アンケートでは、「動物の雰囲気作曲に出ていて楽しかった」「いろんな楽器の音色が動物の声や様子に聴こえておもしろかった」「折紙とのコラボがよかった」「いろいろな動物が登場し、それを折紙でも表現してあったので目からも楽しめた」「子ども向けによく工夫させられました。」

今回は十五周年記念ということで、事前に『「子どものため



のコンサート・シリール「開設十五周年記念「子どものためのコンサート」リーフレット集」を編纂・印刷して、当日会場で来場者に配布しました（少し残部がありますので、希望の方はアウトリーチ・センターまでお知らせ下さい）。

なお、当日はベイ・コミュニケーションズの取材が入り、「ベイコム地元ニュース」で三月四日から六日までの三日間に十一回の放映（放映エリアは西宮市、伊丹市、尼崎市、宝塚市、川西市、および神戸市北区の一部）が行われたことを付記します。

(アウトリーチ・センター長、津上智実)

(別表) 出演者一覧(敬称略)

パーカッション・前田紗希(音楽学部四年生)

指揮・ザビエルラック(音楽学部専任講師、フルーティスト)

ピアノ・大浦春菜(音楽学部非常勤講師)、西脇恭子(大学院音楽研究科修了生)、金丸史奈(音楽学部四年生)

ヴァイオリン・辻井淳(音楽学部准教授)、菊本恭子(音楽学部非常勤講師)

チェロ・藤井さくら(人間科学部三年生)

語り十パーカッション・山田のさ(大学院音楽研究科一年生)

卒業生)

ヴィオラ・土井茉莉(音楽学部三年生)

チェレスタ・池上夏帆(音楽学部四年生)

コントラバス・藪内弥侑(音楽学部四年生、ピアノ専攻)

フルート十ピッコロ・田中佑奈(大学院音楽研究科一年生)、岩井香那(大学院音楽研究科一年生)、橋本詩織(音楽学部四年生)

クラリネット・蔭山晶子(音楽学部非常勤講師)

オーボエ十コル・アングレ生)

樋口成香(大学院音楽研究科一年生)

ファゴット・小西朋子(音楽学部非常勤講師)



七夕コンサート

「子どものための七夕コンサート」～みんなで奏でる愛のハーモニー～（「子どものためのコンサート・シリーズ」第四十七回）を七月一日（土）、本学講堂で開催しました（第一部十一時開演、第二部十五時開演、

来場者数・第一部三百九十三名／第二部百三十二名、計五百二十五名）。

出演は「音楽によるアウトリーチ」履修生を中心に、ピアノ（城ヶ崎彩圭、松本祐佳、太田春菜、渡部里紗）、



声楽（糸田麻里絵、高橋輝、種村ひかり、上野緑）、フルート（淨弘知佳子）の九名が

力を合わせました。

このコンサートは、七夕のお話を軸に、物語を進めながら曲の説明も挟んで演奏に入るという形をとりました。

開幕は

グスター

ヴ・ホルス

トの組曲

《惑星》よ

り《木星》

を二台ピ

アノで演

奏し、物語



の舞台である星の世界への入り口としました。挨拶と趣旨説明に続いて、七夕物語の朗読が始まり、ここから物語に沿って進んでいきます。

まずは織姫と彦星の愛の語らひとして、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル作のオペラ《エジプトのジュリアス・シーザー》より二重唱《愛しい人よ！美し



い人よ！」を演奏。次にフルートが登場し、フルートに関するクイズをしまし

た。三択式で手を上げてもらい、豆知識も紹介すると会場から反応があつて手応えを感じました。フルート独奏でアントニン・ドヴォルジャークの《ユーモレスク》を演奏し、織姫と彦星が楽しく過ごして



いる様子を感じてもらいました。

続いてフランツ・シューベルトの《魔王》をピアノ連弾で演奏し、仕事をさぼり始めた二人に怒った神様が二人を引き離す

場面としました。悲しみに暮れた織姫が、神様に彦星と会わせてほしいと願う場面では、ソプラノ独唱でジャコモ・プッチーニ作のオペラ《ジャニンニ・スキッキ》より《私のお父様》を歌いました。こうして織姫の願いが届き、七夕の日のみ会つてよいと許されて、再会を待ち望む様子を、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト作のオペラ《フィガロの結婚》より《早くおいで、素晴らしい喜びよ》のソプラノ独唱で歌いました。



ここで、二人が会えるように会場のお客様と協力して川に星の橋をかけようというアクティビティをしました。成功すると星



の橋が架かり、織姫と彦星が再び会えるというものです。フランス民謡《きら星》を

使って二つのリズムを用意しました。織姫のリズムは機織の音を入れて「おりひめとんからりん」、彦星のリズムは牛飼いにふさわしく「ひこぼしモーモー」とし、この二つを会場全体で練習した後、会場を二つのグループに分けて交互に叩いたり、叩きながら歌ったり、また第一部と二部で難易度を変えるなどの工夫もしました。それまでずっと聞き手だったお客様ですが、このアクティビティを通して会場が一つになった感覚がありました。

星の橋が架かって二人が再会を果たす場面で、ミュージカル映画《オズの魔法使い》より、「強く信じれば願いは叶う」という意味が含まれている、ハロルド・アーレン作曲の《虹の彼方に》をメゾ・ソプラノとフルートで演奏。再会を喜ぶ二人を祝福する場面では、ジュゼツペ・ヴェ



ルディイ作のオペラ《椿姫》より《乾杯の歌》を声楽四重唱にアレンジして歌いました。

続いて、様々な童謡を入れた《童謡メドレー》（松尾璃奈編曲）です。知っている曲は会場のお客様も一緒に歌ってもらう形式にしたのですが、その前に身体は楽器であるという説明を

してから軽く身体をほぐしました。メドレーの曲には、子どもに馴染みがある曲とそうでない曲があり、親子の交流の場にもなった様子でした。最後は下総皖一作曲《たなばたさま》を会場のお客様と歌って締めくくりました。



終演後にオルガン、トーンチャイム、ヴァイオリン、チェロ、フルートの楽器体験コーナーを設け、たくさん子どもたちが参加してくれました。

このコンサートのテーマは、「みんなで奏でる愛のハーモニー」という副題にもあるように、「ハーモニー」です。曲の説明の中でアンサンブルとは「心を合わせて演奏すること」と噛み

砕いて説明したり、アクティビティ等を通して会場のお客様とともにハーモニーを作りだしたり、コンサートの実現することのできたのではないかと思えます。



（高橋輝・記）



西宮市立門戸幼稚園

六月二日（金） 十時十五分

から西宮市立門戸幼稚園（西宮市門戸東町三の二十五、園長・阿部久美先生）にて園児対象の「あじさいコンサート」（四十五分）を行いました（ピアノ・渡部里紗、声楽・上野緑、高橋輝）。

「一緒に体を動かしたり歌ったりしながら音楽を楽しむ」ことをテーマに、クイズも交えて梅雨の季節らしいプログラムを考えました。

始めに、幼稚園で普段から歌



っているところ聞いた久石譲の〈さんぽ〉を皆で歌いました。思っていたよりもずつ



と元気に園児たちが歌ってくれて、私たちもうれしかったです。演奏者の紹介をした後、ピアノ

の鍵盤の数でクイズをしました。一鍵ずつ弾いて見せるとみんな一生懸命聴いてくれて、三択から答えを選んで手を挙げてくれました。楽器紹介に続いて、ピアノ独奏でラフマニノフ作曲〈音の絵のエチュード〉を演奏。園児にはむずかしいかもしれないと心配していましたが、集中して聴いてくれました。続いて木下牧子作曲〈風を見た人〉を独唱すると、子どもたちも聴き入ってくれました。中山晋平作曲〈あめふり〉では、まずは小さな声で、次に大

きな声でと強弱の変化をつけながら歌って、一緒に音楽を楽しみました。

アクティビティとしてフランス民謡〈きらきら星〉でリズム遊びをしました。少しむずかしいリズムにもチャレンジしましたが、園児たちも一生懸命取り組んでくれました。

ロッシーニ作曲〈猫の二重唱〉では、小道具を使って雨の日のストーリーを演出しました。

皆で体をほぐす体操をしてから、童謡の〈かたつむり〉を一緒に歌い、用意していた虹の絵



を披露して、坂田修作曲〈にじのむこうに〉を歌いました。最後に、やなせたかし作曲〈手のひらを太陽に〉を会場の皆で

てのアウトリーチ実習でしたが、子どもたちが別れ際に「また来てね!」と言ってくれてとてもうれしかったです。子どものパワーと音楽のパワーを改めて感じることができました。



一緒に歌って、盛り上がりつつ終えることができました。私たちの今年度初め



（渡部里紗・記）



昨年度の学外アウトリーチ

大阪市立総合医療センター

三月六日(月) 十四時半から
大阪市立総合医療センター(大
阪市都島区都島本通二の十三の
二十二)のさくらホールで「ス
プリング・コンサート」桜色の
訪れ」(四十五分)を行いました
(声楽・荒木この美、作曲・
信田亜美、ピアノ・金丸史奈、
森口真美)。

「桜色の訪れ」をテーマに、
プログラムでは春にちなんだ曲
を中心に、馴染み深い曲を多く
取り上げました。



オープニ
ングは、チャ
イコフスキ
ー作曲(花の
ワルツ)(ピ
アノ連弾)で
す。続いて、

ジャコモ・プッチーニ作曲(私
の大好きなお父さん)(ソプラ
ノ、ピアノ)、シヨパン作曲(子
犬のワルツ)(ピアノ独奏)を
演奏し、歌とピアノの音色を楽



で歌い、すてきな歌詞の歌をお
届けしました。

ここで参加型のアクティビテ
イとして、久石讓作曲(さんぽ
で皆様と一
緒に身体を
動かしまし
た。動きをむ
ずかし目に
設定しまし
たが、皆様
が必死に、しか



し楽しそ
うに動き
を真似し
て下さつ
て、場が
盛り上が
りました。



次は、
小林秀雄作曲(すてきな春に)
(ソプラノ、ピアノ)で、初恋
の揺れ動く気持ちを感じてもら
いました。この曲がドラマテイ
ックに終わった後、対照的なシ
ューマン作曲(トロイメライ)
(ピアノ独奏)の演奏で、会場
が一気にしっとりとした和やかにな
りました。

続いて、荒木この美編曲の(春
メドレー)は、冒頭で演奏した
(花のワルツ)を下敷きにした
前奏から始まり、(春の小川)
(春が来た)(朧月夜)(花)
の四つの童謡をメドレーに仕立
てたものです。皆様と一緒に元

気よく歌うことができ、うれ
しかったです。

最後に、中村八大作曲(上を
向いて歩こう)を皆様と一緒に
歌いました。

アンコールとして、角野寿
和・青葉紘季作曲(三百六十五
日の紙飛行機)を歌いました。
朝の連続テレビ小説「あさが来
た」の主
題歌だつ
たので、



皆様は口
ずさんで
下さり、
中には涙
ぐむ人も
見受けられました。
本当に人の温かみを感じて、
充実したアウトリーチとなりま
した。

(森口真美・記)

刀根山病院

三月九日（木）午後二時から
国立療養機構刀根山病院のB棟
一階プレイルームにて「春らん
まんコンサート」（六十分）
を行いました（フルート・金木
志織、声楽 編曲・荒木この美、
ピアノ・金丸史奈、森口真美、
上田仁美、中まゆり）。

今回のテーマの「春らんまん」
を念頭に、あ
たたかな雰
囲気を感じ
て頂けるよ
う皆で選曲
しました。

まず、シヨ
パン作曲（子
犬のワルツ）（ピアノ独奏）で
軽やかに始まり、メンデルスゾ
ーン作曲（春の歌）（フルート、
ピアノ）をフルートの楽器紹介
を加えて演奏しました。



ここで
（ラジオ体
操第一）を
BGMに、
顔をほぐす
体操を皆様
と行いまし
た。顔を動
かしながら

私たちが周りの方と顔を見合わ
せることでお互いの距離感が少
し近くなりました。その上で平

尾昌晃作曲（瀬戸の花嫁）と横
原敬之作曲（世界に一つだけの
花）を皆様と一緒に歌いました。

次のゲール作曲（蝶々）は今
回唯一の短調の曲で、違いを感
じて頂ける

よう演奏し
ました。続い
てプッチー
ニ作曲のオ
ペラ（ジヤ
ン・スキッ



キヨより（私
のお父さ

ん）（声楽、
ピアノ）、
チャイコフ
スキー作曲
のバレエ音
楽（くるみ

割り人形）より（花のワルツ）
（ピアノ連弾）と華やかな曲で
楽しんで頂きました。

このコンサートのために荒木
この美が編曲した（春のうたメ
ドレー）で季節にちなんだ童謡
と一緒に歌って春を感じて頂き、
続いてシューマン作曲（子供の
情景）より（トロイメライ）（ピ
アノ独奏）のしっとりとした雰
囲気で会場が包まれました。

ここで（マツケンサンバ）の
リズムに合わせた体操です。意
外と素早い振り付けに、それま
で真剣に聞いて下さっていた
方々も思わず笑顔で、場が和や



かになりました。続いて（アメ
イジング・グレイス）（声楽、
フルート、ピアノ）をアンサン
ブルで演奏。私たちの学び舎の
お話を交えて澤内崇作曲の記念
歌（ビュートイ・ビカムズ・ア
カレッジ）を出演者全員で演奏
し、小林秀雄作曲（すてきな春
に）（声楽、ピアノ）を聴いて
頂きました。

最後に中
村八大作曲
（上を向い
て歩こう）
と岡野貞一
作曲（ふる

さと）を皆様と一緒に歌ってコ
ンサートを終えました。

六十分と盛り沢山なプログラ
ムでしたが、皆様が最後まで真
剣に、楽しそうに、思い思いに
聴いて下さってうれしかったです。
ありがとうございます。

（中まゆり・記）



卒業生の活動

卒業生のアウトリーチ活動

M二二〇、ピアノ専攻

アウトリーチ一期生
内藤雪子



昨年十二月、〈子どものためのクリスマス・コンサート〉に出演し、卒業式での演奏以来十数年ぶりに神戸女学院の講堂で演奏しました。母校でのコンサートというものは、まるで過去に戻ったような気分と、あの頃とは全く変わった自分を持った自分を同時に味わうような不思議な感覚がありました。すばらしい機会を頂けました

こと、本当にうれしく思っております。振り返ってみますと、私はかなり早い段階から、学校の外で演奏する機会に恵まれていました。今回の文章を書くにあたって過去のコンサート・プログラムを見直してみたところ、病院や幼稚園、小学校、美術館や図書館、ホテルのロビー、個人のプライベート・パーティーや船上、ブライダル・フェア、テレビやラジオ番組など、書ききれないほどさまざまなシチュエーションでのコンサートに出演していたことに自分でも驚きました。駆け出しの頃は音楽高校の友人や先輩、先生と共演させて頂くことが多く、コンサートに



必要な様々なスキルを磨くようにとアドバイスを頂いて成長してきました。どんな状況も切り抜けられる技術の使い方を教えて下さっているピアノの恩師にはいつも感謝しておりますし、アウトリーチの授業では、実地で経験したものを学問的に分析研究できて、自信を持って次の演奏を迎えることができるようになっていきました。

最初の頃に最も戸惑ったのは司会などの技術を磨くことです。ピアノを弾く人はステージではお辞儀する以外は横を向いていますから、正面を向き続ける緊張感に慣れるのは時間がかかりました。言葉遣



オのコンサートでは、秒単位で演奏時間を指定され、必ず演奏を終えるようにという注文があり、六十秒、九十秒で必ず演奏できる曲を組み合わせ、時計を睨みながらにこやかに演奏したのは特別な経験でした。日本の四季の映像に合わせて《日本の四季メドレー》を演奏した時は、映像の変化と曲の移り変わりをマッチさせなくてはならず、目は画面にくぎ付けで手元を見る余裕はありませんでしたが、機



いに気を付けなければならぬのですが、ステージでは原稿は見ないで、お客様の目を見ながら四方に視線を送ることを意識しています。船上やテレビ、ラジ

会があればもう一度やってみたい企画です。

選曲はコンサートを考える上でも重要です。普段からよいなと感じた曲を見つけるとすぐに記録し、一度使用した楽譜は出来るだけ保存するように心がけています。演奏を聴かせられる曲、お客様と一体となって楽しめる曲、小道具を使った演出などに適した曲は、いろいろな場所で使えます。



スマス・コンサートで披露した
コンピュータ作曲《チョップステ

イック変奏曲》の曲中でのパート交代や、ハチャトウリアン作曲《剣の舞》でのグリッサンドの効果的な活用は、ピアニストが演奏中に行える数少ない演出やパフォーマンズになるので重宝しています。

しかし、演奏をする立場として最も重要なことは何か。それは演奏そのものに他ならないでしょう。学校の実技テストで弾いた長大で複雑難解な曲は、ごく一部のリサイタルやコンサート以外ではあまり喜ばれません。ピアニストとしては、ショパン

の《小犬のワルツ》《幻想即興曲》、リストの《愛の夢》、モーツアルトの《トルコマーチ》等の名曲中の名曲が必須となりました。そして、そのような名曲こそ本当にむずかしく力量を問われます。伴奏も加えると、コードネームでの伴奏付けやアレンジする能力、即興の移調技



術もこんなに重要なことになるとは思って
もみませ
んでした。

私が大
学を卒業

した頃と比べると、今は演奏の場が多岐にわたり、コンサートの可能性は徐々に広がってきています。それだけに出演者や企画者の柔軟な対応能力は不可欠です。音楽関係者だけでなく、お客様や主催者側の目線にも立つてコンサート企画をしていくようになっていきたいと思っています。

大学卒業後の演奏活動において、「ここからこっちは普通のコンサート、こっちはアウトリーチ」という境界線はありません。場所、客層、状況を踏まえていかに聴かせ、参加してもら

い、共有するか。それらはコンサートを構想する私達の判断にゆだねられています。樂しむ心を忘れず、よりよいコンサートをめざしてこれからも進んでいきたいと思っています。

私は、音楽は言葉にできない気持ち共有するための「言葉のない言語」なのではないかと思っています。だからこそ、これからの変動の時代に可能性は広がっていくのだと信じています。



今後の活動

第八回 音で遊ぼう！

子どものための

音楽作りワークショップ

第八回「音で遊ぼう！子どものための音楽づくりワークショップ」を十月十四日（土）九時から十六時まで音楽館ホールで開催します。

これは、東京音楽大学との連携事業の一環として、英国ギルドホール音楽院修士課程「リーダーシップ・コース」修了生の三名を講師に招いて、学生・卒業生及び一般人を対象とする「音楽作りワークショップ特別研修」を十月十日（火）から四日間（十月十二日を除く）実施し、その仕上げとして最終日に近隣の子どもたちを招いて行なうものです。

今回はオリヴィア・ブラッドベリー（英国人の歌手、作曲家、シアターメイカー）とジェーム

ズ・アダムズ（英国人のマルチ・プレイヤーで作曲家）の二名を日本に招聘し、同じく同コース

修了生で本学卒業生の東瑛子

（ヴァイオリン）も加わって、

三名で指導に当たります。

二〇〇七年にスタートした

「音楽作りワークショップ特別

研修」と「音で遊ぼう！子ども

のための音楽づくりワークショップ

」とを組み合わせる試みも、

すでに八回目を迎えました。毎

回楽しみに参加してくれる子ども

たちもいて、定着してきたこ

とを感じさせます。

老若男女を問わず誰もが持つ

ているクリエイティブな力を音

楽によって引き出し、共に構築

しながら音楽を生み出していく

というワークショップの手法は、

人間に秘められたクリエイティ

ブな力に対する再発見と信頼を

もたらししてくれます。関心のあ

る方はぜひご参加下さい。

子どものための

クリスマス・コンサート

「子どものためのクリスマス・

コンサート」わたしのステキな

プレゼント」（子どものため

のコンサート・シリーズ第四十

九回）を十二月九日（土）に講

堂で開催します（十一時と十五

時半開演の二回公演）。

出演は、荒木この美（声楽）、

市川真衣、金丸史奈、鹿島久美

子、中まゆり（以上、ピアノ）、

岩本紗綾（ハープ）、前田紗希

（パーカッション）の大学院音

楽研究科一年生七名です。この

内、三名はアウトリーチ既習生、

二名は他大学からの進学者です。

クリスマスにふさわしく、心

からの贈り物として歌やピアノ、

ハープやパーカッションによる

演奏を子どもたちの心に届けよ

うと、力を合わせてプログラム

を練っています。演奏曲目は、

チャイコフスキー作曲《くるみ

割り人形》より《花のワルツ》、

マスカリーニ《アヴェ・マリア》、

ピアポント《ジングルベル》、

小林亜星《あわてんぼうのサン

タクロース》ほかの予定です。

どうぞご期待ください。

（アウトリーチ・センター長、

津上智美）



♪今後の予定

◎アウトリーチ

2017年 9月29日(金) 西宮市鳴尾北幼稚園
2017年 11月 4日(土) 野木病院
2017年 11月 9日(木) 国立病院機構兵庫中央病院
2017年 12月 15日(金) 雲雀丘学園小学校
2018年 3月 国立病院機構刀根山病院(日程調整中)

◎ワークショップ

「第8回 音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」
日時:2017年10月14日(土) 9:30~16:00
場所:神戸女学院大学 音楽館ホール
講師:英国ロンドン市立ギルドホール音楽院リーダーシップ専攻修了者
対象:小学生・中学生・高校生 先着40名
参加費:無料
応募方法:アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第48回 子どものためのスペシャル・コンサート ～指揮者ってなあに?～」
日時:2017年10月28日(土) 11:00開演 ※3歳未満のお子様のご入場はご遠慮ください。
会場:神戸女学院講堂
出演:松浦 修(指揮・ピアノ・お話)
金丸史奈、高津小百合(ピアノ)
山田りさ、前田紗希、山下すみれ、山本瑞葉(パーカッション)、高橋輝(語り)
入場料:大人1000円、子ども(3歳~19歳)500円
応募方法:アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第49回 子どものためのクリスマス・コンサート ～わたしのステキなプレゼント～」
日時:2017年12月9日(土)
第1部 11:00開演(年齢制限なし、未就学児対象)
第2部 15:30開演(小学生以上対象 ※未就学児のお子様は入場できません)
会場:神戸女学院講堂
出演:神戸女学院大学大学院音楽研究科1年生
入場料:大人500円、子ども300円
応募方法:アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。
大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場にてききな音楽のプログラムをお届けします。

♪小中学校へ:総合的学習支援プログラムとして、
子どものための楽しい体験学習を！

♪病院や美術館へ:催しの趣旨に沿った手作りの音楽
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター(月~金 10:00~15:00)
〒662-8505 西宮市岡田山4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

後期も様々な活動が目白押しです。どうぞお楽しみに!(寺澤)
今年の履修生は頑張り屋さん揃いです。後期の実習も精一杯サポートいたします!(森)
後期も様々な実習やコンサートが予定されています♪後期も引き続きがんばります!(増田)
昔、子どもとして参加していた人が母親になって子連れで来たこと知りました。15年の積み重ねを感じます。(津上)